

福 井 県 医 師 会

だより

第634号 平成26年(2014)4月



味真野のサクラ

鯖江市 清水 元博

表紙写真説明：味真野のサクラ

鯖江市 清水 元博

越前市味真野小学校校庭に咲くエドヒガンサクラです。

この巨木は樹齢100年以上といわれており、昭和53年10月1日市指定文化財に指定されました。

撮影当日は雨天でしたが、夕闇迫る小学校校庭中央に巨大に聳え立つサクラの姿に大変感動し、思わずシャッターを切りました。

## 醫 縫 録

### いろいろ変わる

学術担当理事 越 野 雄 祐



昨年、新しく県医師会理事を拝命しました。まだまだわからないことが多く、いろいろご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが今後ともよろしく願い申し上げます。

早いもので私が三国の地で内科診療所を開業してから13年余の月日が過ぎてしまいました。開業当初は勤務医の感覚がなかなか抜けず、経営者、開業医としての才覚にまったく欠けていたように思いますが、最近になってようやく少しはかかりつけ医としてのスタンスが身につけてきたかなと思います。しかし医師会での諸先輩方からみればまだまだ若輩者でこれからも日々修行の毎日が続くことでしょう。さて私は県理事の中で学術担当理事という役をいただきました。「学術」などという高尚なものとは無縁な人生を歩んできた私ですが、これは前任の先生からのスライドで拝命したわけで、決して私の人柄、資質、経歴などから選ばれたわけではもちろんありません。これがなかなか忙しい役職で、会議や勉強会などのスケジュールのやりくりに苦勞することも多々あります。前任の先生からは「県理事になってもっと視野を広げてください」という大変ありがたいお言葉とともに背中を押されてきたわけですが、いざやってみるともうほんとうに視野が広がりっぱなしでまだはつきりと全体像が見えてこない状態です。しかし医療を取り巻く状況がどうなっているかがヴィヴィッドにわかるし、他の医師会員の先生方をはじめ、いろいろな職種の方々とお知り合いになれるのでこれはこれでけっこう楽しいものです。東京出張なんかもあって初めて日本医師会館がどこにあって、どんな所なのかもわかりました。しかし就任後1年もたっていないのでまだまだ力不足の感は否めません。これからも精一杯頑張っていこうと考えています。

このように私の生活周辺は昨年からかなり変化がありました。考えてみるとその他にもいろいろ変わってきたことがたくさんありま

す。母校にはもうすぐ新しい病棟の建物ができるらしい。新しい教授も次々と来られているが、ほとんどの先生が自分より年下になってきている。初診の時はまだ中学生だった近所の女の子が昨年研修医になって母校で研修を受けている。私も年をとるはずだ。消費税がもうすぐ8%になる。いずれ10%になるが、そうなったら我々の業界はどう変わるのだろうか。小学生の時はあれほど勉強をしなかった我が息子が、高校生になって医学部を目指して目の色を変えて勉強している。強制したつもりはないが、自分から医者を目指すと言ってくれたことがうれしかった。しかし最近の医学部受験は我々の時とはまるで違う世界らしい。家内に言わせれば国立の医学部受験は東大、阪大受験に匹敵するという。信じられない話だ。医療技術や治療薬も日進月歩だ。今までは治らなかつた病気も治る可能性が出てきたことは喜ばしい。我々開業医も一生懸命新しい知識を習得していかなければたちまち時代からおいていかれるだろう。ネット社会はこれからどうなっていくだろう。誰でも最新の情報に簡単にアクセスできる世の中だ。医療に関する国民の目もますます厳しくなっていくのは間違いない。いろいろ変わる。変わっていく。自分も変わらねばいけないのか。確実に年をとり、体のあちこちに少々不具合もある今日この頃、こんな変化は避けられない。自らこれからの新しい時代に対応できるようにしていかなければならないことは確かなことだ。しかし、地域に寄り添い患者さんの立場に立って日々の診療をしていく、この基本的なかかりつけ医のスタンスだけは変えてはいけないことだろう。

さあ今年こそは人生初の人間ドックに挑戦しよう。